

【表紙】

【提出書類】	半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2024年11月13日
【中間会計期間】	第123期中（自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）
【会社名】	日本ギア工業株式会社
【英訳名】	NIPPON GEAR CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 寺田 治夫
【本店の所在の場所】	東京都港区西新橋1丁目7番14号
【電話番号】	(03)6363-3170番
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 林 秀樹
【最寄りの連絡場所】	東京都港区西新橋1丁目7番14号
【電話番号】	(03)6363-3173番
【事務連絡者氏名】	取締役管理部長 林 秀樹
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第122期 中間会計期間	第123期 中間会計期間	第122期
会計期間	自2023年4月1日 至2023年9月30日	自2024年4月1日 至2024年9月30日	自2023年4月1日 至2024年3月31日
売上高 (千円)	4,164,454	4,241,942	9,622,022
経常利益 (千円)	822,261	919,238	2,151,481
中間(当期)純利益 (千円)	545,960	625,196	1,539,465
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	1,388,800	1,388,800	1,388,800
発行済株式総数 (千株)	14,280	14,280	14,280
純資産額 (千円)	10,040,302	11,648,498	11,096,171
総資産額 (千円)	13,201,633	14,403,212	14,677,227
1株当たり中間(当期)純利益 (円)	38.35	43.91	108.13
潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	3.0	4.0	8.0
自己資本比率 (%)	76.1	80.9	75.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	533,531	785,589	748,942
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	69,509	213,813	331,614
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	127,232	146,712	245,049
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高 (千円)	4,640,115	4,900,653	4,475,606

(注) 1. 当社は中間連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり中間(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当中間会計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当中間会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当中間会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

財政状態の状況

当中間会計期間末における財政状態につきましては、流動資産は前事業年度末に比べ5億30百万円減少し、102億98百万円となりました。これは主に現金及び預金が4億25百万円、棚卸資産が1億32百万円増加いたしましたが、売上債権等が10億91百万円減少したことによるものであります。

固定資産は前事業年度末に比べ2億56百万円増加し41億4百万円となりました。これは主に有形固定資産が1億3百万円、無形固定資産が11百万円、前払年金費用が1億41百万円増加したことによるものであります。

流動負債は前事業年度末に比べ7億81百万円減少し20億95百万円となりました。これは主に仕入債務が3億52百万円、未払法人税等が1億78百万円減少したことによるものであります。

固定負債は前事業年度末に比べ44百万円減少し6億58百万円となりました。これは主に長期借入金が43百万円減少したことによるものであります。

純資産は前事業年度末に比べ5億52百万円増加し116億48百万円となりました。これは主に利益剰余金が5億54百万円増加したことによるものであります。

経営成績の状況

当中間会計期間におけるわが国経済は、堅調な企業収益を背景とする設備投資の持ち直しや、賃上げに伴う雇用・所得環境に改善の動きが見られるなど、景気は緩やかに回復しました。一方で、不安定な世界情勢のなか長期化する原材料・エネルギー価格の高騰や欧米における高い金利水準の継続に伴う影響など、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

当中間会計期間の受注高は、49億59百万円（前年同期比5.9%減）、売上高は、42億41百万円（前年同期比1.9%増）、受注残高は、52億81百万円（前事業年度末比15.7%増）となりました。

損益面につきましては、売上原価が24億7百万円（前年同期比6.2%増）、販売費及び一般管理費は前払年金費用の数理計算上の差異（有利差異）1億27百万円を一括処理したことにより、9億43百万円（前年同期比13.7%減）となりました。これにより、営業利益は8億90百万円（前年同期比10.9%増）、経常利益は9億19百万円（前年同期比11.8%増）、中間純利益は6億25百万円（前年同期比14.5%増）となりました。

各セグメントの業績は次のとおりです。

歯車及び歯車装置事業

a. パルプ・アクチュエータ

受注高は火力発電所、原子力発電所向けが減少したことにより、前年同期比7.7%減少いたしました。売上高は石油・ガス向け、鉄道船舶用が増加したことにより前年同期比1.3%増加いたしました。

b. ジャッキ

受注高は自動車用、半導体・液晶向けが減少したことにより、前年同期比22.1%減少いたしました。売上高は半導体・液晶向け、産業機械用が減少したことにより、前年同期比7.0%減少いたしました。

c. その他増減速機

受注高は化学、上下水道向けが増加したことにより、前年同期比2.6%増加いたしました。売上高は化学、産業機械用が増加したことにより、前年同期比33.4%増加いたしました。

d. 歯車

受注高は特殊車用、産業機械用が減少したことにより、前年同期比37.7%減少いたしました。売上高につきましても特殊車用、産業機械用が減少したことにより、前年同期比6.8%減少いたしました。

工事業

受注高は原子力発電所、石油・ガス向けが増加したことにより、前年同期比7.5%増加いたしました。売上高は火力発電所、上下水道向けが減少したことにより、前年同期比2.1%減少いたしました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）の残高は、前事業年度末に比べ4億2500万円増加し49億円（前事業年度末比9.5%増）となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動により得られた資金は、7億8500万円（前年同期比47.2%増）となりました。これは主に税引前中間純利益9億1900万円、減価償却費1億円、売上債権の減少11億1600万円の収入に対し、棚卸資産の増加1億3200万円、仕入債務の減少3億5700万円、前払年金費用の増加1億4100万円、法人税等の支払額4億6600万円の支出によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動により支出した資金は、2億1300万円（前年同期比207.6%増）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出1億8700万円、無形固定資産の取得による支出2300万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動により支出した資金は、1億4600万円（前年同期比15.3%増）となりました。これは主に長期借入金の返済による支出7600万円、配当金の支払額7000万円によるものであります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当中間会計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当中間会計期間において、当社が優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当中間会計期間における研究開発活動の金額は、5500万円であります。

なお、当中間会計期間において、当社の研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当中間会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	57,000,000
計	57,000,000

【発行済株式】

種類	中間会計期間末現在発行 数(株) (2024年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2024年11月13日)	上場金融商品取引所名又 は登録認可金融商品取引 業協会名	内容
普通株式	14,280,000	14,280,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	14,280,000	14,280,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2024年4月1日～ 2024年9月30日	-	14,280,000	-	1,388,800	-	448,348

(5) 【大株主の状況】

2024年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数 に対する所有株式数の割合(%)
株式会社成和	東京都港区西新橋1丁目14番9号	5,633	39.57
株式会社三田商店	岩手県盛岡市中央通1丁目1番23号	1,027	7.22
株式会社GM INVESTMENTS	東京都中央区八重洲1丁目4番22号	300	2.11
日本ギア取引先持株会	神奈川県藤沢市桐原町7日本ギア工業(株)内	289	2.03
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140042 (常任代理人株式会社みずほ銀行 決済営業部)	240 GREENWICH STREET,NEW YORK,NY 10286,U.S.A (東京都港区港南2丁目15番1号)	221	1.55
THE BANK OF NEW YORK MELLON 140040 (常任代理人株式会社みずほ銀行 決済営業部)	240 GREENWICH STREET,NEW YORK,NY 10286,U.S.A (東京都港区港南2丁目15番1号)	211	1.49
株式会社千代田組	東京都港区西新橋1丁目2番9号	210	1.47
株式会社SBI証券	東京都港区六本木1丁目6番1号	171	1.20
石森 美智子	宮城県石巻市	158	1.11
日本マスタートラスト信託銀行株 式会社(信託口)	東京都港区赤坂1丁目8番1号	157	1.11
計	-	8,381	58.87

(注) 上記日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)の所有株式数のうち、信託業務に係る株式数は、157千株であります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2024年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 42,700	-	単元株式数100株
完全議決権株式(その他)	普通株式 14,207,700	142,077	同上
単元未満株式	普通株式 29,600	-	-
発行済株式総数	14,280,000	-	-
総株主の議決権	-	142,077	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株含まれております。また、「議決権の数(個)」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数10個が含まれております。

【自己株式等】

2024年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
日本ギア工業株式会社	東京都港区西新橋1丁目7番14号	42,700	-	42,700	0.30
計	-	42,700	-	42,700	0.30

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 中間財務諸表の作成方法について

当社の中間財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、金融商品取引法第24条の5第1項の表の第1号の上欄に掲げる会社に該当し、財務諸表等規則第1編及び第3編の規定により第1種中間財務諸表を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、中間会計期間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）に係る中間財務諸表について、新創監査法人による期中レビューを受けております。

3. 中間連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、中間連結財務諸表を作成しておりません。

1【中間財務諸表】

(1)【中間貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,475,606	4,900,653
受取手形、売掛金及び契約資産	1 2,256,035	1,778,921
電子記録債権	1 1,793,668	1,178,832
商品及び製品	210,639	213,875
仕掛品	576,718	505,038
原材料及び貯蔵品	1,418,855	1,619,558
その他	97,883	101,905
流動資産合計	10,829,407	10,298,786
固定資産		
有形固定資産		
土地	1,013,291	1,013,291
その他(純額)	755,432	859,366
有形固定資産合計	1,768,723	1,872,657
無形固定資産		
	115,951	127,149
投資その他の資産		
投資有価証券	982,806	983,452
前払年金費用	908,161	1,049,301
その他	76,502	76,190
貸倒引当金	4,326	4,326
投資その他の資産合計	1,963,144	2,104,618
固定資産合計	3,847,819	4,104,426
資産合計	14,677,227	14,403,212
負債の部		
流動負債		
買掛金	482,645	384,652
電子記録債務	1 897,954	643,341
1年内返済予定の長期借入金	144,147	111,812
未払法人税等	501,956	323,071
契約負債	48,219	56,923
賞与引当金	205,034	203,994
その他	597,454	371,967
流動負債合計	2,877,411	2,095,763
固定負債		
長期借入金	222,317	178,511
退職給付引当金	1,358	1,100
資産除去債務	167,222	167,315
その他	312,745	312,024
固定負債合計	703,643	658,951
負債合計	3,581,055	2,754,714

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,388,800	1,388,800
資本剰余金	844,542	844,542
利益剰余金	8,412,713	8,966,722
自己株式	15,707	15,739
株主資本合計	10,630,348	11,184,325
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	465,823	464,172
評価・換算差額等合計	465,823	464,172
純資産合計	11,096,171	11,648,498
負債純資産合計	14,677,227	14,403,212

(2) 【中間損益計算書】

(単位 : 千円)

	前中間会計期間 (自 2023年 4月 1日 至 2023年 9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年 4月 1日 至 2024年 9月30日)
売上高	4,164,454	4,241,942
売上原価	2,267,135	2,407,548
売上総利益	1,897,318	1,834,394
販売費及び一般管理費	1,093,875	943,653
営業利益	803,443	890,741
営業外収益		
受取利息	13	192
受取配当金	13,385	16,083
出向者負担金	8,845	3,645
受取補償金	-	7,052
その他	3,358	3,610
営業外収益合計	25,602	30,585
営業外費用		
支払利息	1,315	1,033
支払手数料	745	750
為替差損	2,062	-
契約解約損	2,325	-
その他	335	304
営業外費用合計	6,784	2,087
経常利益	822,261	919,238
税引前中間純利益	822,261	919,238
法人税等	276,301	294,042
中間純利益	545,960	625,196

(3)【中間キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	822,261	919,238
減価償却費	80,141	100,478
受取利息及び受取配当金	13,398	16,275
支払利息	1,315	1,033
為替差損益(は益)	32	17
契約解約損	2,325	-
賞与引当金の増減額(は減少)	2,950	1,039
退職給付引当金の増減額(は減少)	116	258
前払年金費用の増減額(は増加)	25,975	141,139
売上債権の増減額(は増加)	245,991	1,116,896
契約資産の増減額(は増加)	49,809	24,947
棚卸資産の増減額(は増加)	213,776	132,260
仕入債務の増減額(は減少)	88,650	357,531
契約負債の増減額(は減少)	131,390	8,704
未払又は未収消費税等の増減額	20,268	87,185
その他	17,805	149,101
小計	817,112	1,236,628
利息及び配当金の受取額	13,398	16,275
利息の支払額	1,273	1,115
法人税等の支払額又は還付額(は支払)	295,705	466,199
営業活動によるキャッシュ・フロー	533,531	785,589
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	55,521	187,384
有形固定資産の売却による収入	100	-
無形固定資産の取得による支出	12,241	23,300
投資有価証券の取得による支出	2,291	3,017
敷金及び保証金の差入による支出	137	496
その他	581	384
投資活動によるキャッシュ・フロー	69,509	213,813
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	69,871	76,141
リース債務の返済による支出	1,308	-
自己株式の取得による支出	25	32
配当金の支払額	56,027	70,538
財務活動によるキャッシュ・フロー	127,232	146,712
現金及び現金同等物に係る換算差額	32	17
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	336,822	425,046
現金及び現金同等物の期首残高	4,303,292	4,475,606
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,640,115	4,900,653

【注記事項】

(中間財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当中間会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前中間純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(表示方法の変更)

(中間貸借対照表)

従来、「流動負債」の「その他」に含めていた「契約負債」は、明瞭性を高めるため、当中間会計期間より独立掲記することとしました。

(中間キャッシュ・フロー計算書)

従来、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に含めていた「契約負債の増減額」は、明瞭性を高めるため、当中間会計期間より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前中間会計期間の中間財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前中間会計期間の中間キャッシュ・フロー計算書において、「営業活動によるキャッシュ・フロー」の「その他」に表示していた、149,195千円は、「契約負債の増減額」131,390千円、「その他」17,805千円として表示しております。

(中間貸借対照表関係)

1. 期末日満期手形等

中間会計期間末日満期手形等の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、前事業年度末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形等が、前事業年度末残高に含まれております。

	前事業年度 (2024年3月31日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
受取手形	5,389千円	- 千円
電子記録債権	124,335	-
電子記録債務	3,378	-

2. 当社は、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行と当座貸越契約及び取引銀行1行と貸出コミットメント契約を締結しております。これら契約に基づく当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前事業年度 (2024年3月31日)	当中間会計期間 (2024年9月30日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの総額	700,000千円	700,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	700,000	700,000

(中間損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
給料	305,316千円	313,989千円
賞与引当金繰入額	78,775	81,732
退職給付費用	40,712	124,809

(中間キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
現金及び預金勘定	4,640,115千円	4,900,653千円
現金及び現金同等物	4,640,115	4,900,653

(株主資本等関係)

前中間会計期間(自2023年4月1日 至2023年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月23日 定時株主総会	普通株式	56,949	4.0	2023年3月31日	2023年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年10月30日 取締役会	普通株式	42,712	3.0	2023年9月30日	2023年12月5日	利益剰余金

当中間会計期間(自2024年4月1日 至2024年9月30日)

1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年6月25日 定時株主総会	普通株式	71,186	5.0	2024年3月31日	2024年6月26日	利益剰余金

2. 基準日が当中間会計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当中間会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2024年10月31日 取締役会	普通株式	56,949	4.0	2024年9月30日	2024年12月5日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前中間会計期間(自2023年4月1日 至2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	歯車及び歯車装置	工事	
売上高			
一時点で移転される財	3,128,831	672,556	3,801,388
一定の期間にわたり移転される財	-	363,066	363,066
顧客との契約から生じる収益	3,128,831	1,035,622	4,164,454
その他の収益	-	-	-
外部顧客への売上高	3,128,831	1,035,622	4,164,454
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	3,128,831	1,035,622	4,164,454
セグメント利益	479,255	324,188	803,443

(注) セグメント利益の合計は、中間損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と中間損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当中間会計期間（自2024年4月1日 至2024年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

（単位：千円）

	報告セグメント		合計
	歯車及び歯車装置	工事	
売上高			
一時点で移転される財	3,227,750	648,403	3,876,153
一定の期間にわたり移転される財	-	365,788	365,788
顧客との契約から生じる収益	3,227,750	1,014,192	4,241,942
その他の収益	-	-	-
外部顧客への売上高	3,227,750	1,014,192	4,241,942
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-
計	3,227,750	1,014,192	4,241,942
セグメント利益	517,306	373,434	890,741

（注）セグメント利益の合計は、中間損益計算書の営業利益と一致しております。

2. 報告セグメントの利益の金額の合計額と中間損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

（1株当たり情報）

1株当たり中間純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前中間会計期間 （自 2023年4月1日 至 2023年9月30日）	当中間会計期間 （自 2024年4月1日 至 2024年9月30日）
1株当たり中間純利益	38円35銭	43円91銭
（算定上の基礎）		
中間純利益（千円）	545,960	625,196
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る中間純利益（千円）	545,960	625,196
普通株式の期中平均株式数（株）	14,237,431	14,237,303

（注）潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【その他】

2024年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

（イ）配当金の総額.....56,949千円

（ロ）1株当たりの金額.....4円00銭

（ハ）支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2024年12月5日

（注）2024年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の中間財務諸表に対する期中レビュー報告書

2024年11月13日

日本ギア工業株式会社
取締役会 御中

新創監査法人
東京都中央区

指 定 社 員 公 認 会 計 士 飯 島 淳
業 務 執 行 社 員

指 定 社 員 公 認 会 計 士 横 江 俊 亮
業 務 執 行 社 員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本ギア工業株式会社の2024年4月1日から2025年3月31日までの第123期事業年度の中間会計期間（2024年4月1日から2024年9月30日まで）に係る中間財務諸表、すなわち、中間貸借対照表、中間損益計算書、中間キャッシュ・フロー計算書及び注記について期中レビューを行った。

当監査法人が実施した期中レビューにおいて、上記の中間財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本ギア工業株式会社の2024年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する中間会計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に準拠して期中レビューを行った。期中レビューの基準における当監査法人の責任は、「中間財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

中間財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して中間財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない中間財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

中間財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき中間財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

中間財務諸表の期中レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した期中レビューに基づいて、期中レビュー報告書において独立の立場から中間財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる期中レビューの基準に従って、期中レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の期中レビュー手続を実施する。期中レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、中間財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、期中レビュー報告書において中間財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する中間財務諸表の注記事項が適切でない場合は、中間財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、期中レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 中間財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた中間財務諸表の表示、構成及び内容、並びに中間財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した期中レビューの範囲とその実施時期、期中レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 . 上記の期中レビュー報告書の原本は当社（半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 . X B R L データは期中レビューの対象には含まれていません。